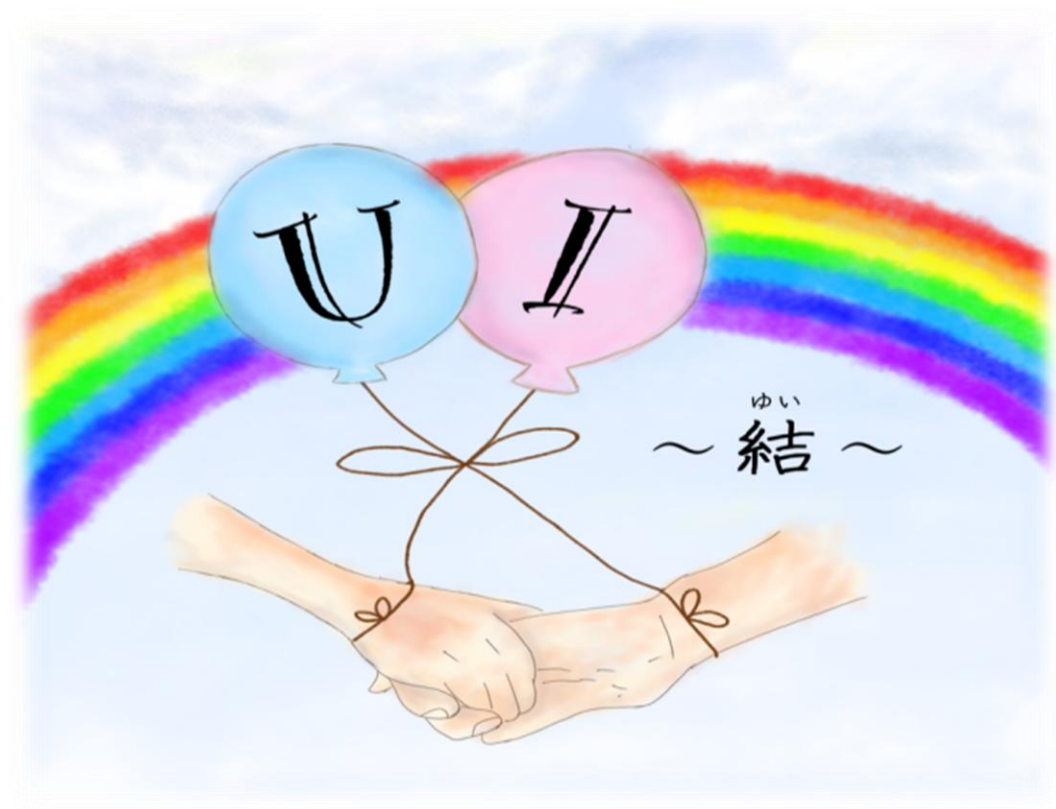


多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～

法人名・事業所名：

社会福祉法人 亀鶴会
特別養護老人ホーム神明園



法人概要

“もとめられる”

社会福祉法人 亀鶴会（きかくかい）は、高齢者福祉事業を通じ地域に求められる存在としてあるべく、高齢者福祉にとどまらない社会福祉ニーズに対応するサービスの提供を実践します。

○事業内容

- ・ 特別養護老人ホーム神明園（定員１２０名）
- ・ ショートステイ 神明園（定員２名）
- ・ 地域公益事業

多世代の居場所づくりプロジェクト

UI～ 結（ゆい）～

○法人の地域公益事業

- ・ 地域の方々と交流ができる、地域に開かれた場となる。
- ・ 地域の介護機能を高める。

地域で介護人材を育てる事も大切な役割とし、特にこどもの頃から関心を育むため、市内保育園や小・中学校との交流を積極的に行ってきた。

コロナ禍からの再始動

多世代の居場所づくりプロジェクト UI～結（ゆい）～

コロナ禍は活動を中止し、地域の方々と交流する機会がなくなる。地域の事が見えなくなると実感。

地域課題

- ・新興住宅地である羽村市神明台周辺は子ども、子育て世代から高齢者まで顔見知り少なく、ご近所付き合いが希薄。
- ・こども、青年、成人、高齢者と各世代の関係が途切れがち、こどもと大人社会相互のつながりが薄い。
- ・独居や高齢者夫婦世帯が多く、このような方たちの交流の場が少ない。

「なにをすべきか?」「なにが出来るのか?」亀鶴会公益的取組推進会議にて話し合いを重ね

地域に住む人たちの「つながり」をつむぎ、各世代の「やくわり」を生み出す居場所を創設する必要性を感じ、、
2022年より 多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～ を立ち上げる

→ 公益事業専任職員を1名配置、神明台sTorehouseを活動拠点としてスタート

その日、その時、必要な時に居る事ができる、居たいと思える場所を目指して・・・「神明台sTorehouse」を地域に開放。
現在は3つの活動を主軸に展開

○かふえてりあ はろ

小学生を対象とした夕食付き、放課後の自由活動スペース（活動日：毎週月・水曜日 15時～18時）

○神明台自習室 みらい

中学生を対象とした、放課後の自由活動スペース。地域の方々と交流を図りながら、安心できる環境で学習できる自習室機能を兼ね備え実施（活動日：毎週火・金曜日 15時～19時）

○高齢者の居場所 より処

気軽に集い利用できる場。介護予防やオレンジカフェの機能を兼ね備える。（活動日：毎週月・水・金曜日 10時～15時）

活動拠点

神明台 sTorehouse

2018年、法人の20周年を機に社会福祉法人としての地域への施設機能還元促進、及び神明園独自の大規模災害対策の一環として、高齢者の生活備品を中心に備蓄する防災倉庫として「神明台sTorehouse」を竣工。

災害時に備えて炊き出し設備と飲食スペースを兼ね備えているため、平時にはこの機能を有効活用し、公益的取組を行う拠点としている。



かふえてりあ はろ

小学生が地域の方との交流の機会と、放課後安心して過ごす事ができる夕食付きの居場所

○実施日時

・毎週月・水曜日

15時～18時(夕食17時30分～)

○実施方法

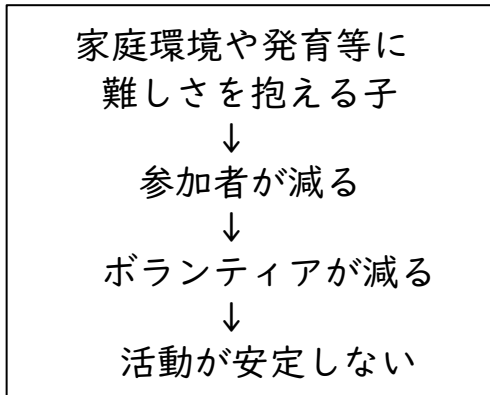
・登録制、自由参加

・参加費、食事代：無料

・対象：小学3年生～6年生

(兄弟が一緒なら小学1年生から利用可能)

→2023年度までは小中学生対象としていたが、小中学生間でトラブルあり。はろは小学生限定に変更。



○活動実績

2022年度 実施回数 67回

総参加人数 394人 平均参加人数 5.9人

自由参加制から予約制へ

保護者からのクレーム

難しさを抱える子の発見と対応

ボランティアさんと方向性の相違

2023年度 実施回数 96回

総参加人数 732人 平均参加人数 7.6人

難しさを抱える子への対応、関わり重視

課題、問題発見の場

2024年度 実施回数 88回

総参加人数 435人 平均参加人数 4.9人

誰も来なくなる、再スタート

10月～予約制から自由参加制へ

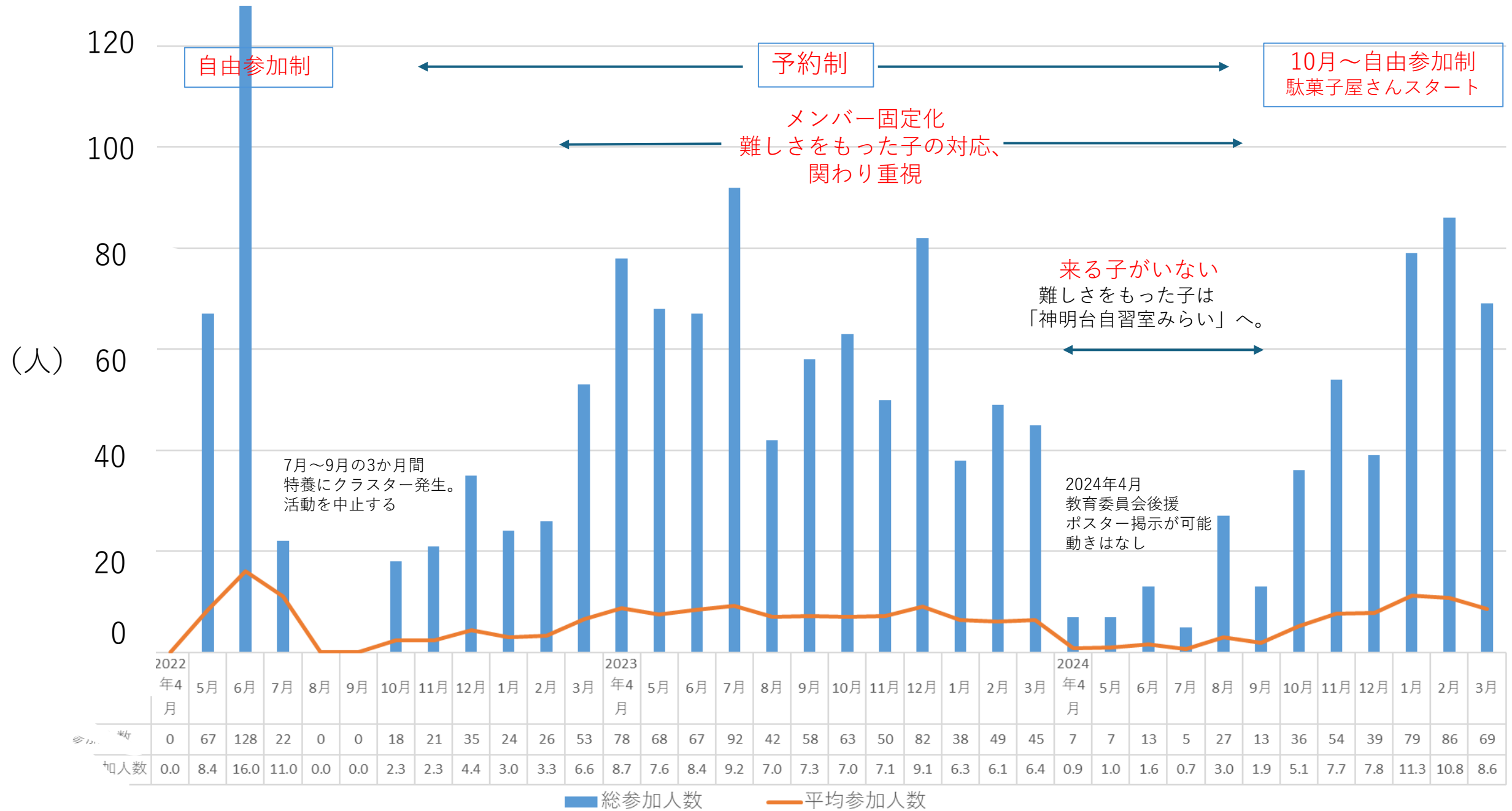
学童が利用できなくなる3年生の問い合わせ、利用が多い

2025年度 公園や児童館のように、自分の意志で自由に行く事ができる放課後の居場所を目指して!

活動日を水・土曜日から月・水曜日に変更

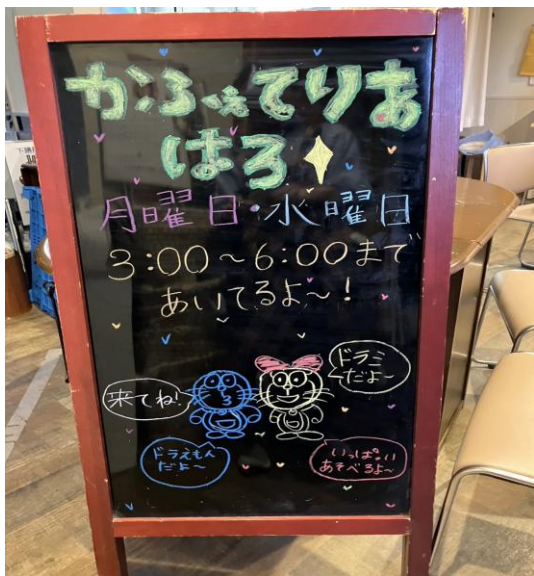
来る子に合わせて流動的に活動を継続

かふえてりあ はろ参加人数推移 (2022年～2024年度)



活動の成果

- ・放課後の過ごす場の提供
- ・大人と関わる機会の提供
- ・食事の提供
- ・関心を持つ
（地域セーフティーネット）
- ・問題、課題発見の場



助成金の活用

2023年度:計622,750円

- ①ファミリーマート&むすびえこども食堂助成(春助成)
活動費として80,000円
- ②公益社団法人 オリックス宮内財団
子ども食堂応援プロジェクト 2023年度助成
運営に対する助成(ランニングコスト)として240,000円
- ③むすびえ・こども食堂基金2023年度春募集
食材料費として92,750円
- ④東京都社会福祉協議会「令和5年度地域課題に取り組むための助成事業」
UI~結~活動費として210,000円



2024年度:計612,340円

- ①カゴメみらい野菜財団
はろ食材料費として178,500円
- ②むすびえ こども食堂向け2024年度春募集(修繕・備品支援)
ブースデスク購入 103,840円
- ③東京都社会福祉協議会「令和6年度地域課題に取り組むための助成事業」
駄菓子屋さん開設資金として100,000円
- ④公益社団法人 太陽生命厚生財団 2024年度社会福祉助成
より処活動費として 230,000円



それぞれの活動から、人が集まる事で 見えてきた事がたくさんある



地域と関わる事を大切に、地縁組織では困難な部分をカバーしたり、地域に助け合いの関係を築いたり、地域に働きかけていく拠点としての機能を担っていききたい。

社会福祉法人が地域の貴重な社会資源となるため

「なにをもとめられているのか」

「何をするべきか」

この問い常に考え、活動を実践していきます。